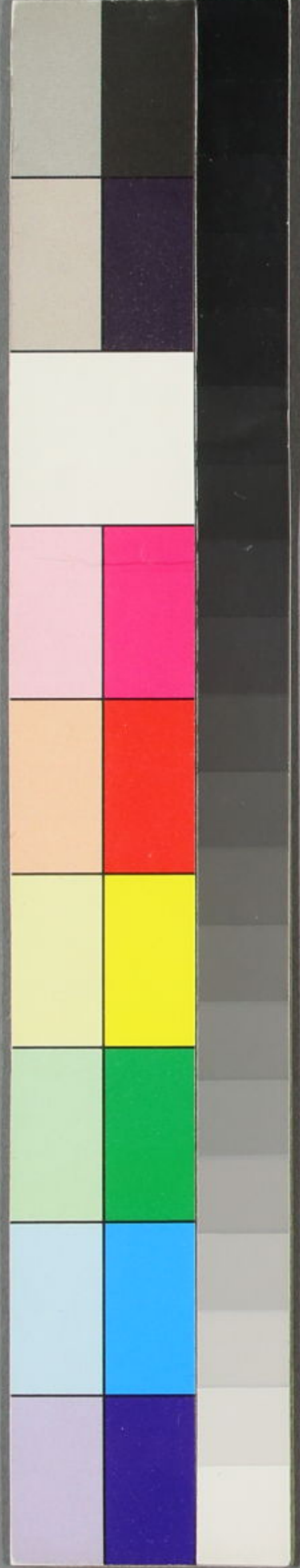


南都大佛殿御縁起
全

ハ 4
3889



門山
號3889
卷

聖武皇帝金銅勅願文



水田一萬町

以前捧上件物達限日月窮未來際敬納
彼三寶分依此發願大上天皇沙弥勝滿
諸佛擁護法藥薰質万病消除壽命延長
一切所願皆使滿足令法久住拔濟群生
天下大地人民快樂法界有情共成佛道
以代代國王為我寺檀越若我寺興復天

下興復若我寺衰弊天下衰弊復誓其後
代有不道之主邪賊之臣若犯若破障而
不行者是，人必得破辱十方三世諸佛菩
薩一切賢聖之眾終當隨大地獄無數劫
中永無出離十方一切諸天梵天護塔大
善神王及普天宰土有勢威力天神地祇
七廟尊靈并依命立一切大臣將軍靈共起
大禍永滅子孫若不犯觸敬勤行者世世
累福終隆子孫共塵域早登覺岸
天平勝寶元年

平城宮御宇大上天皇咨名勝滿

菩薩戒弟子皇帝沙弥勝滿誓首十方三
世諸佛法僧太子天平十三年歲次辛巳春
二月十四日朕發願稱廣為蒼生遍求景
福天下諸國各合敬造金光明四天王護
國之僧寺并寫金光明最勝王經十部住
僧廿人施封五十戶水田十町又於其寺
造七重塔一區別寫金字金光明最勝王
經一部安置塔中又造法華滅眾之尼寺

并寫妙法蓮華經十部住尼十人水田十
町所冀聖法之盛與天地而永流擁護之
恩被幽明而恒滿天地神祇共相和順恒
將福慶永護國家開闢已降先帝尊靈長
幸珠林同遊寶刹又願太上天皇太皇后
藤原氏皇太子已下親王及大臣等同資
此福俱到彼岸藤原氏先後太政大臣及
皇后先妣從一位攝氏太夫人之靈識恒
奉先帝而陪遊淨土長願後代而常衛聖
朝乃至自古已來至於今日身為大臣竭

忠奉國者及見在子孫俱因此福各經前
範堅守君臣之禮長紹父祖之名廣紛群
生通該庶品同辭愛網共出塵籠者今以
天平勝寶五年正月十五日莊嚴已畢仍
置塔中伏願前日之志悉皆成就若有後
代聖主賢卿彙成此願乾坤致福愚者拙
臣改替此願神明勅訓

東大寺大佛殿縁起上

夫南阿浮提大日本國惣國分寺東大寺

聖武皇帝救世觀音此化現して歡願と凝四聖

同心此草創也其由本とらむじり 釈尊

智度母法乃初普賢文殊觀音弥勒等此菩薩

衆生利益此とらむじりこととあぐ 四聖同

時よ出給たり

本願皇帝救世觀音

行基尊母文殊

菩提僧正普賢

良弁僧正弥勒

伊勢太神宮此に地と表して朝家第一

乃復國寺よりとらむじり八幡大菩薩とて依

此とらむじりて瑞籙と伽藍此のこらむじり

志ありて徳護とらむじりとらむじり眼とあけて

廣修とられぬ忽ふ十聖此業網とらむじり頭成

とまはれて恭敬とられぬ永く三達の菩薩と

とまはるるこらむじりあり

大佛緣起



大佛緣起



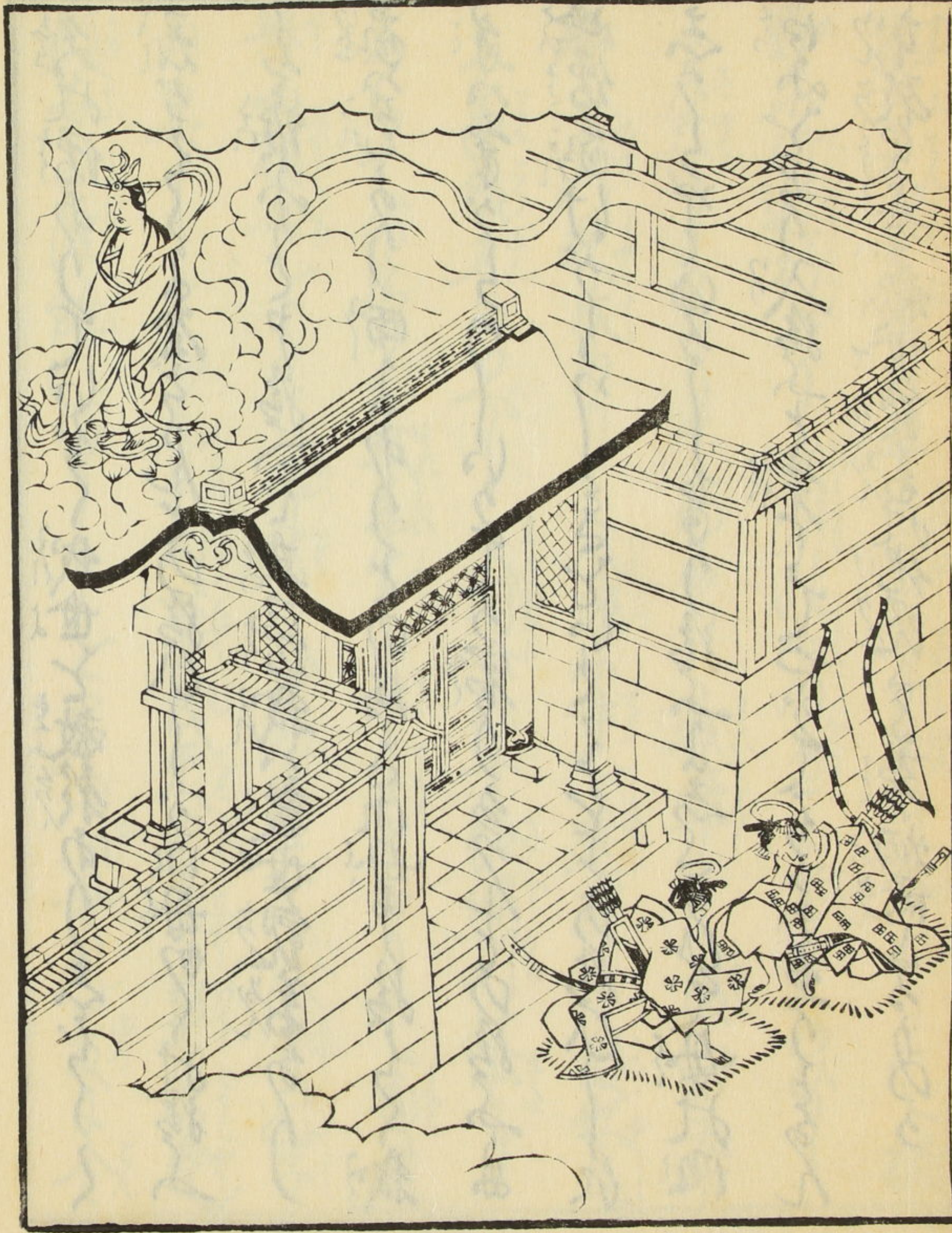
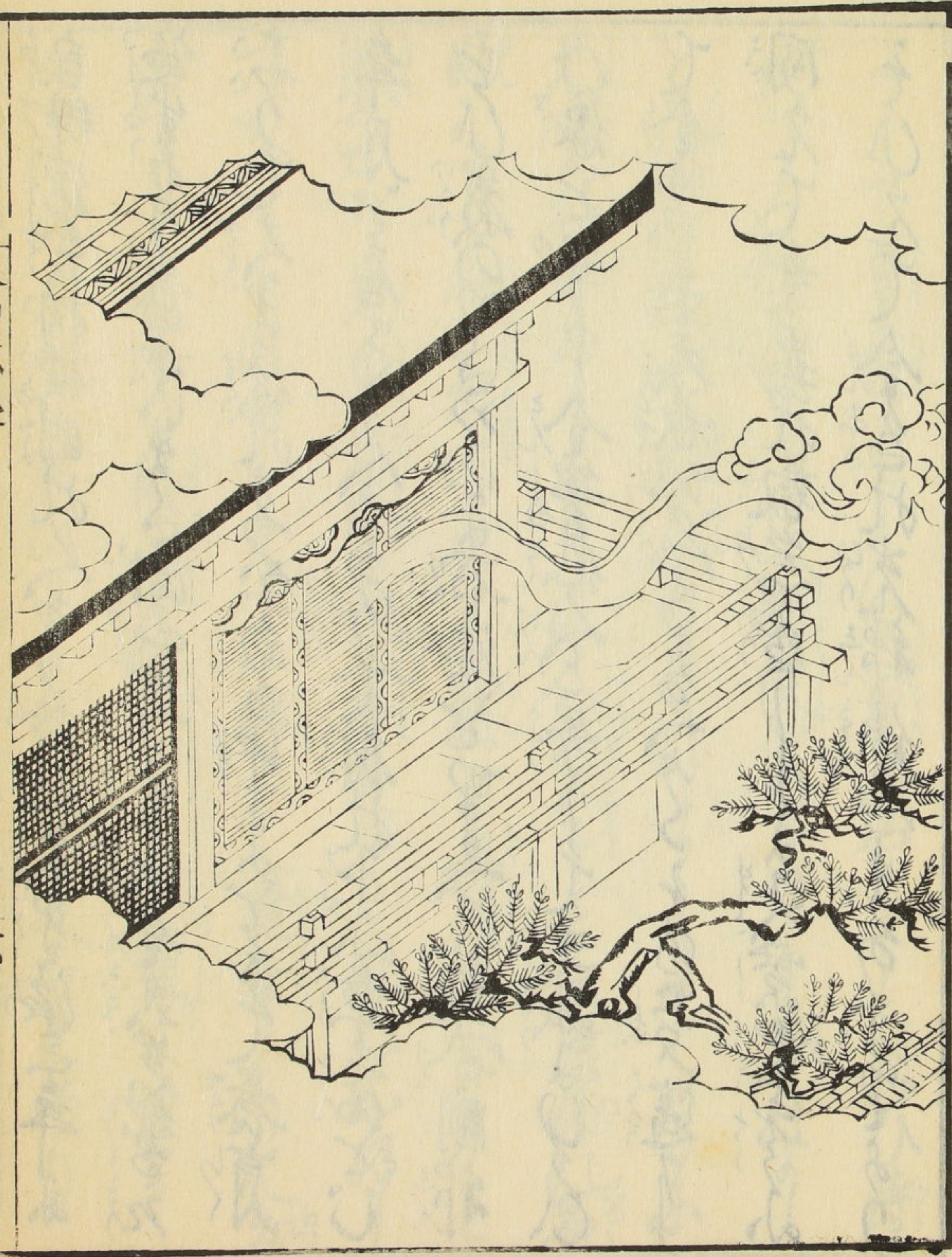
花嚴良弁僧正衆生よ衆母より佛法とりめん
 がしあり合衛國へおびこり流砂と後らんと
 せしよ船北備笈あきて後月目とまきりに
 聖武天皇の御世に世の流砂のまじりて
 しくくらくが被來法れんごうの感とて後
 かりよのろろびみたるごうてきていらく船作
 ちび善國よありて一玉に玉徳めとありて
 同く其國お生れく階壇とありて大休盤と眞
 際し衆生とぬなせんたらひはり



大佛家地

推古天皇十二年上宮太子夢見若ありて根
 野小津遊移あり泉川北なる宿り給ひ
 よたひりうりてのありて我薨じて後二百五十
 年よ乃教氏ありて比地小寺と建置し彼教氏
 も後身ありて又同女又年彼保川北あり
 してその給りて我身生る帝は母ありて南此
 學ふ精舎として佛法とむりありてふび不立字
 ありてとある是別聖武天皇聖實傳
 彼女子降誕此じと云ふは母れ養ひ令

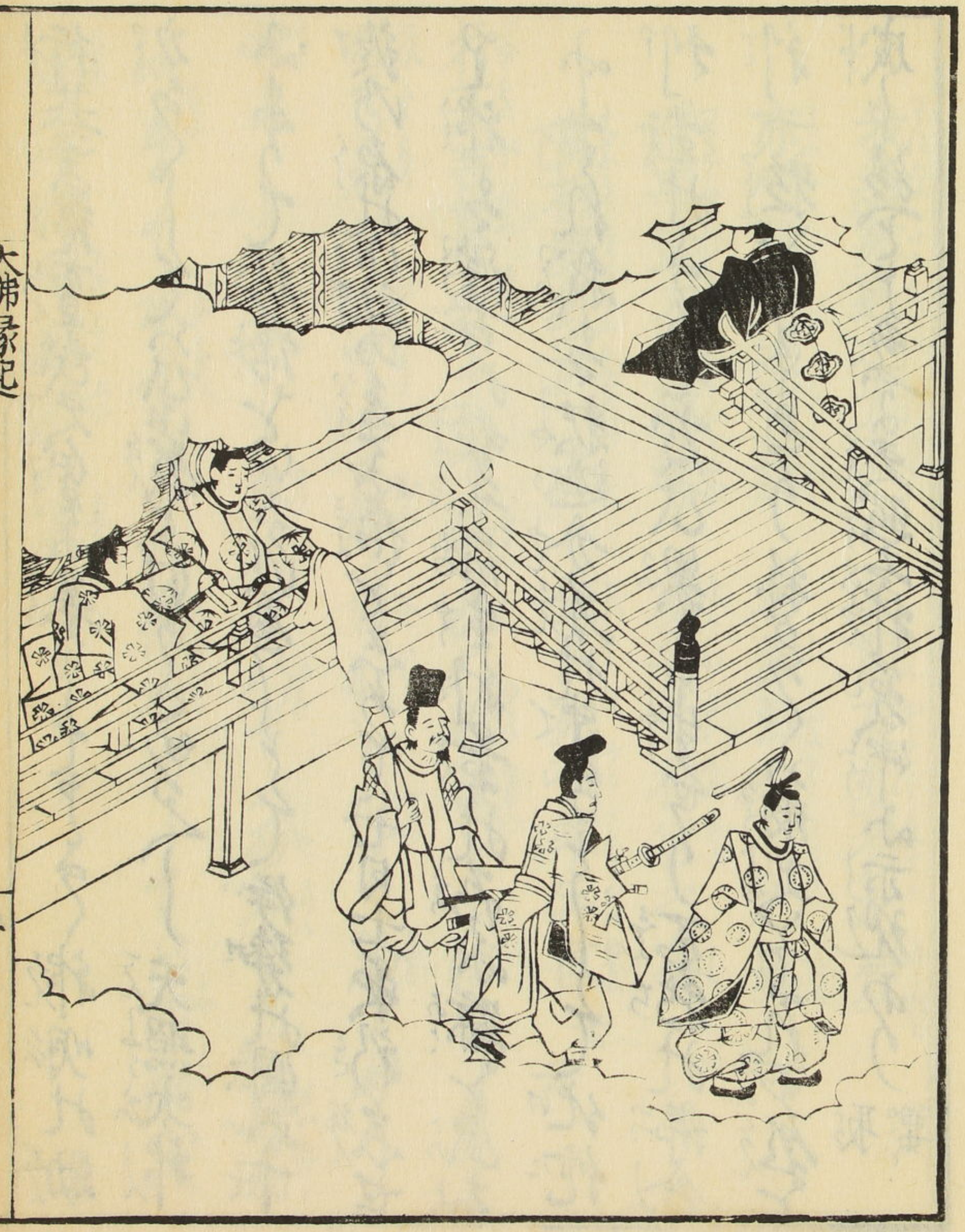
久此傳ありていよく我世と教於ありてとらうく
 思ぐらうよなとんとの給ひ一ぐは母めくは給ふ
 も推ふりて給へ其傳我の教世親もあり
 我の是あり西よありとの給ひは母や給らう我
 身のまぐらうりていりてり宿りあるんとの給ひは
 此傳承けがらうりていりてり宿りあるんとの給ひは
 去らうりてゆりてなまり給ふよまぐらひて母れは
 ばふりてり入給ふと覺ててやがてらうとありとある
 女於帝救世親も此地現る事柄焉とありあり



自辨傍心相換國此人あり持統天皇御治三年
延生あり當寺いまも深山あり一ふ令又光徳宮に
ありて大なる松林あり中よとて巻育
年月と傳く人となりて樹林下草庵と
といふ處のめぐりたる石燈とありて
乃徳と安と金徳と号して王城のひ
て金徳天皇天皇長地とありて
聞えて奇異此觀念あり一ふ又
そのひえて金徳此光徳徳乃まあり

さうして皇太后とて天皇の御
と爲る世法なる仙人ありけり
天皇の幸ありたり仙人衆
因あり世法なる仙人ありけり
養育り天皇の御
てありけり一は
ありて
ありて

大佛縁起

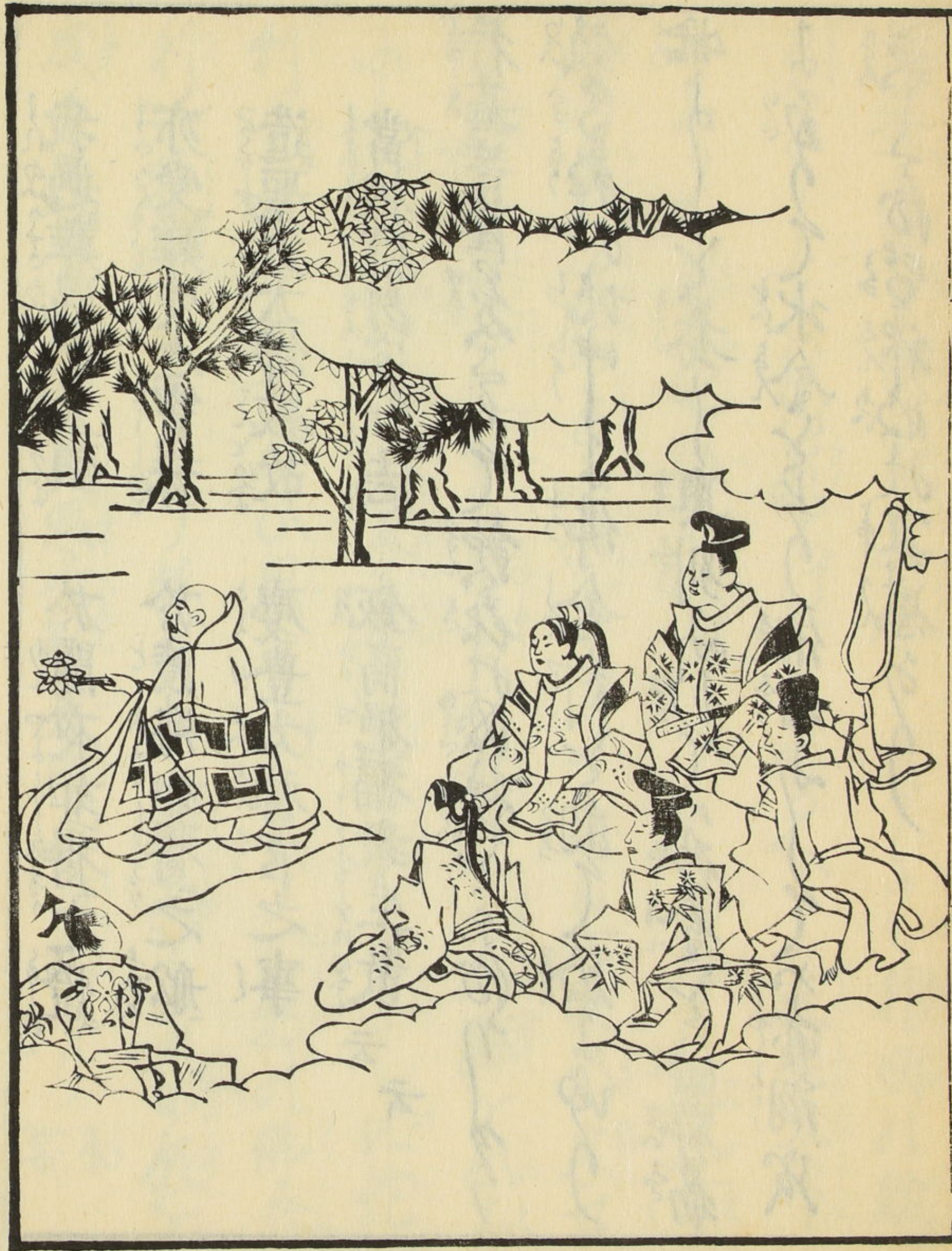


大佛縁起



行基菩薩重武天皇御養一とやうに御明此助
かみくして心は教とびぐりてつるく一 天照太神
みありて新舊とのみあつとて伊勢此國六十
於乃系此社の名も居とてあつて七日七夜新舊
己神も僅古此業命生利量此はあふ跡とて
みそれ我も新迹分る此子とてして此他
利生れつる七夜心累り生るり不持此佛
利一粒とてまきり新つるく納文とてこれ
成り終とてあまの天照之神爰中み示現あり
要取

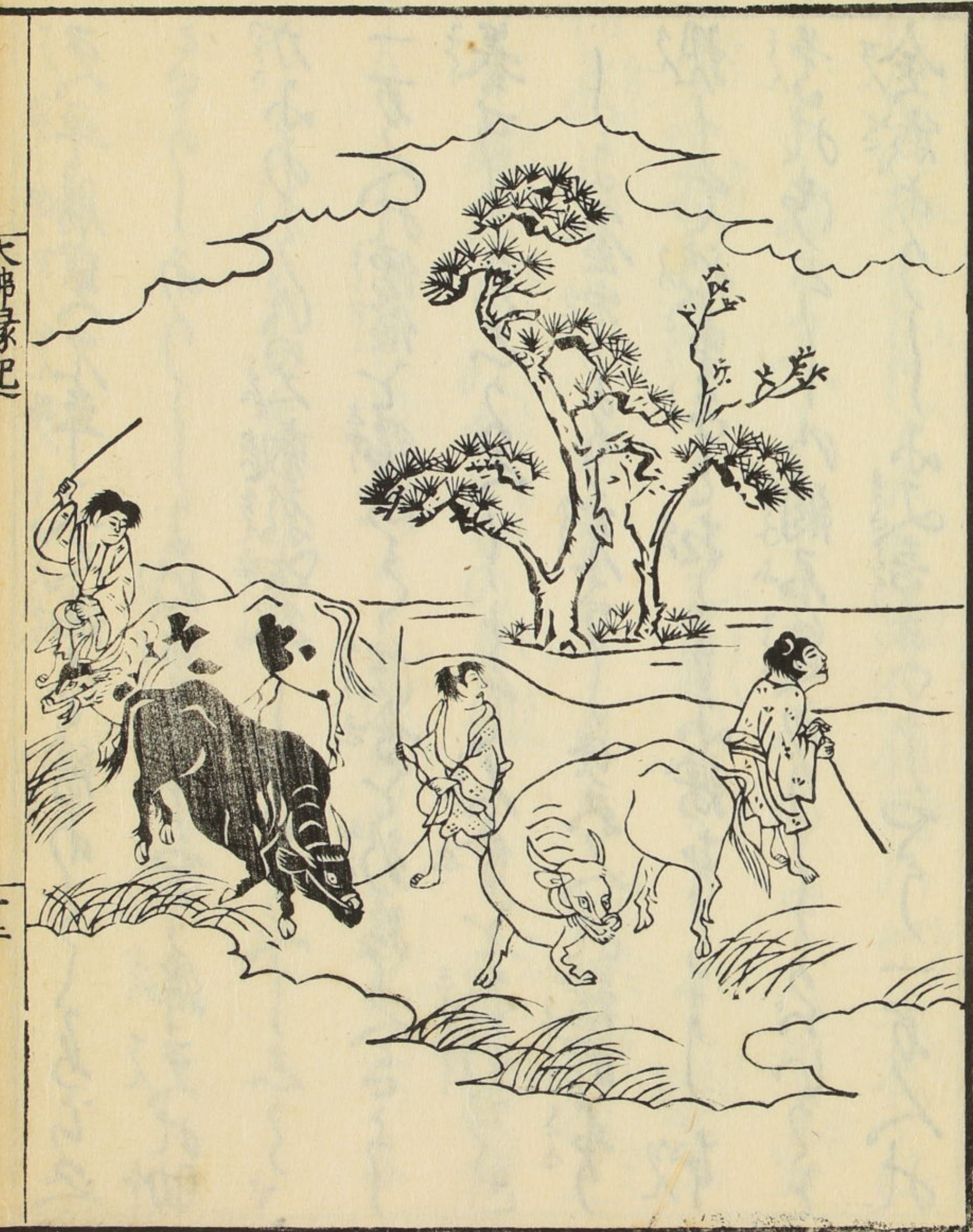
我遇難遇之大願 於闇夜如得之燈
亦受難受之寶珠 於渡海如得之船
造聖武大佛殿故 慶豐太神宮之事
當相應所安三志 飯高施福衆生故 云云
行基菩薩爰よりて教を此社とてゆかりあり
飯高此社此中一佛舍利と納りて於此海り
此より一と養一與別みりて心は金とて此
よありて水金ととり信弱みして心赤銅
求ふ心皆神此其真感あり



東大寺大佛殿縁起中

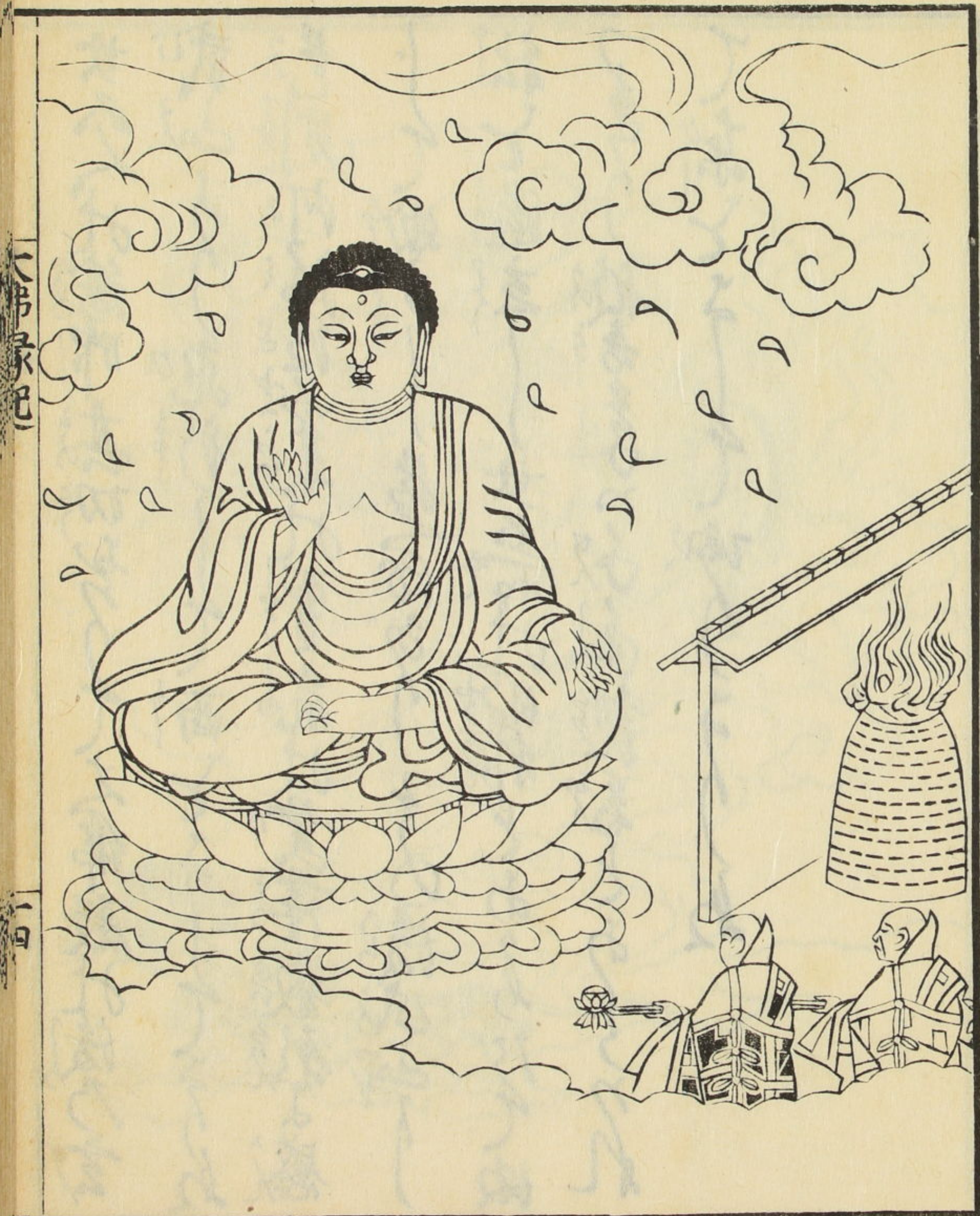
天平十八年大佛此像と漆なる事七十五方より
 まして増正ありたり一六天竺觀音ありたり
 觀音の像にして天魔此像とありはゆり又天竺此
 像のありゆりありして徳坐へ勅使とて一は
 らして漆師此良巧と來り造り勅使長徳國
 雄徳とてありはる童子ありて
 牛の乳のひたり其中一人此童子ありて彼
 勅使とありはるれ我々の宗良此帝の勅使

あり十六丈此容と漆をひるる漆師此良
 巧と來りありとてはる童子別杖とあり
 遠ありはるれ此は相好宗徳の盧舎那佛の像
 と一町ありはる書てありせたり勅使ありて
 ありはるして相具して養育せり六觀感
 ろるはる上の又位とてありはる童子此父と
 きよありて雄徳寺とて寺と建立し金銅此
 童子觀音と安置して大仏とありはる漆なる
 ことありとてありはる



又平勝実元年又大佛と繕わしりあらん
 らしりありしは彼音ま子やう佛又此助
 加ふわしりは之教於此也わしりてしりてしりて
 一万人此佛僧と繕わしりて法會と繕わしりて
 暮中一六志うてしりて大會と繕わしりて
 一は虚をより光うて母人此繕わしり
 現して彼事子とおもふ繕わしりて
 是れ抄りての銅不足ありしりていふこと
 金銀ありしりてふ又音ま子やう一万人此

佛僧此繕わしりて又百張此鑪鞴の中へ投じ
 らしりておあるしりてかみ志うてしりて
 一同お投じりしりておあるしりてしりて
 此れわしりて繕わしりてりて彼虚を光
 らしりて雄終寺此繕わしりての眉間より
 らしりてしりてあらん此れりて其目此不思
 わしりてしりてあり



佛經

卷一



佛經

卷一

女の人此邊所其四よりて之佛殿此後乃言
 武山より飛移して西とさうしてさうね
 是別所跡此來此聖元此業産敷形も感
 して助力一途ありその後此より
 社と遠立一女此此社とありなりて彼
 つまらぬ故書ま子の子も親者とありりれ
 て東とさうして西りさうりぬ





大佛の御姿

十一

大佛の御姿をりてつりては身ふりてのまことなるを念ひ
 此方及びこの世に大佛の御姿をりてつりては身ふりてのまことなるを念ひ
 菩薩の御姿をりてつりては身ふりてのまことなるを念ひ
 勸めて合掌するを御姿をりてつりては身ふりてのまことなるを念ひ
 の御姿をりてつりては身ふりてのまことなるを念ひ
 現まの御姿をりてつりては身ふりてのまことなるを念ひ
 止まの御姿をりてつりては身ふりてのまことなるを念ひ
 ありては御姿をりてつりては身ふりてのまことなるを念ひ
 此れ地ありてつりては身ふりてのまことなるを念ひ

大佛の御姿

十一

善養院山と書後一合と云を記ひたり
 又同山より天合九百と云まじりそ
 よりて天平九年号も勝実れ二字とく
 んて記えありありとされは神御
 大伴家持の事と書一とあてまらるる
 あり

と魚ら記れ御代と云んとありまあ
 みられく一と一と云るはたらく





東大寺大佛殿巡記下

伊勢國より枚原とくさざんとせし
泉川れよふ三田町とくさざんとせし
あさりて川れあいらし海の下とく
さしてあつゆゆふ幾も枚原とくさ
事あらず相儀あれとくさ
とれたる岩屋子籠りて子あは法と
あつてくさざりしより雷津とくさ
くさざりしとくさ

くらひ事^{コト}がひあ^ひ其^{その}くらひ^ひふ^ふ二^に井^い岩^い
 山^{やま}と^と流^{なが}と^とありて^て礎^{いし}原^{はら}よ^よあり^りあ^あれ^れ累^{かさね}と
 り^り二^に井^い中^{ちゆう}と^と少^{すく}城^{じやう}の^の國^{こく}中^{ちゆう}へ^へあ^あれ^れり^りて^て版^{はん}の^の
 累^{かさね}と^とあ^あり^り根^ね柱^{ちゆう}は^は深^{ふか}し^して^て人^{ひと}民^{たみ}平^{へい}さ^さ
 と^とあ^あり^り根^ね柱^{ちゆう}と^と引^ひを^をさ^さし^しよ^よ一^{いつ}あり^り一^{いつ}
 ふ^ふ力^{ちから}士^し愛^{あい}化^け化^け半^{はん}自^じ性^{じやう}よ^よあり^りて^て根^ね柱^{ちゆう}と^と引^ひ
 事^{こと}一^{いつ}あり^りゆ^ゆと^と大^{だい}目^め如^に來^{らい}れ^れ愛^{あい}化^けあり^りと
 あ^あん^んり^りと^と又^{また}之^{この}業^{ごう}洲^{しゆう}れ^れ人^{ひと}ま^ま造^{ぞう}寺^じれ^れ妙^{めう}事^じれ^れ西^{せい}
 よ^よ妙^{めう}事^じ被^ひ送^{そう}寺^じれ^れ官^{くわん}太^{たい}宰^{ざい}卿^{けい}佐^さ伯^{はく}宿^{しゆく}祿^{りく}今^{いま}毛^{もう}人^{ひと}

よ^よ兒^に相^{さう}若^{じやく}あり^りと^とゆ^ゆり^り被^ひ人^{にん}ま^まと^とん^んく^くい^いと^とく^く
 女^{にょ}あ^あり^りよ^よあ^あり^りに^に出^{しゅつ}然^{ぜん}と^と感^{かん}し^して^て持^ぢ者^{しやく}れ^れ其^{その}
 ま^まゆ^ゆり^りは^は根^ね柱^{ちゆう}と^と引^ひを^をさ^さし^しよ^よ一^{いつ}あり^り一^{いつ}
 心^{しん}と^と氣^きと^と引^ひを^をさ^さし^しよ^よ一^{いつ}あり^り一^{いつ}
 初^{しゆ}と^とく^くふ^ふ護^ご法^{ぽう}れ^れ天^{てん}衆^{しゆう}と^と勅^{しやく}傳^{でん}せ^せし^しと^とく^く極^{ごく}
 忽^{いづ}よ^よ虚^こ空^{くう}と^と地^ぢ造^{ぞう}寺^じれ^れあ^あり^りと^とり^りあ^あり^りあ^あり^り
 の^の人^{ひと}海^{かい}表^{ひょう}極^{ごく}り^りあ^あり^りと^とり^りあ^あり^り

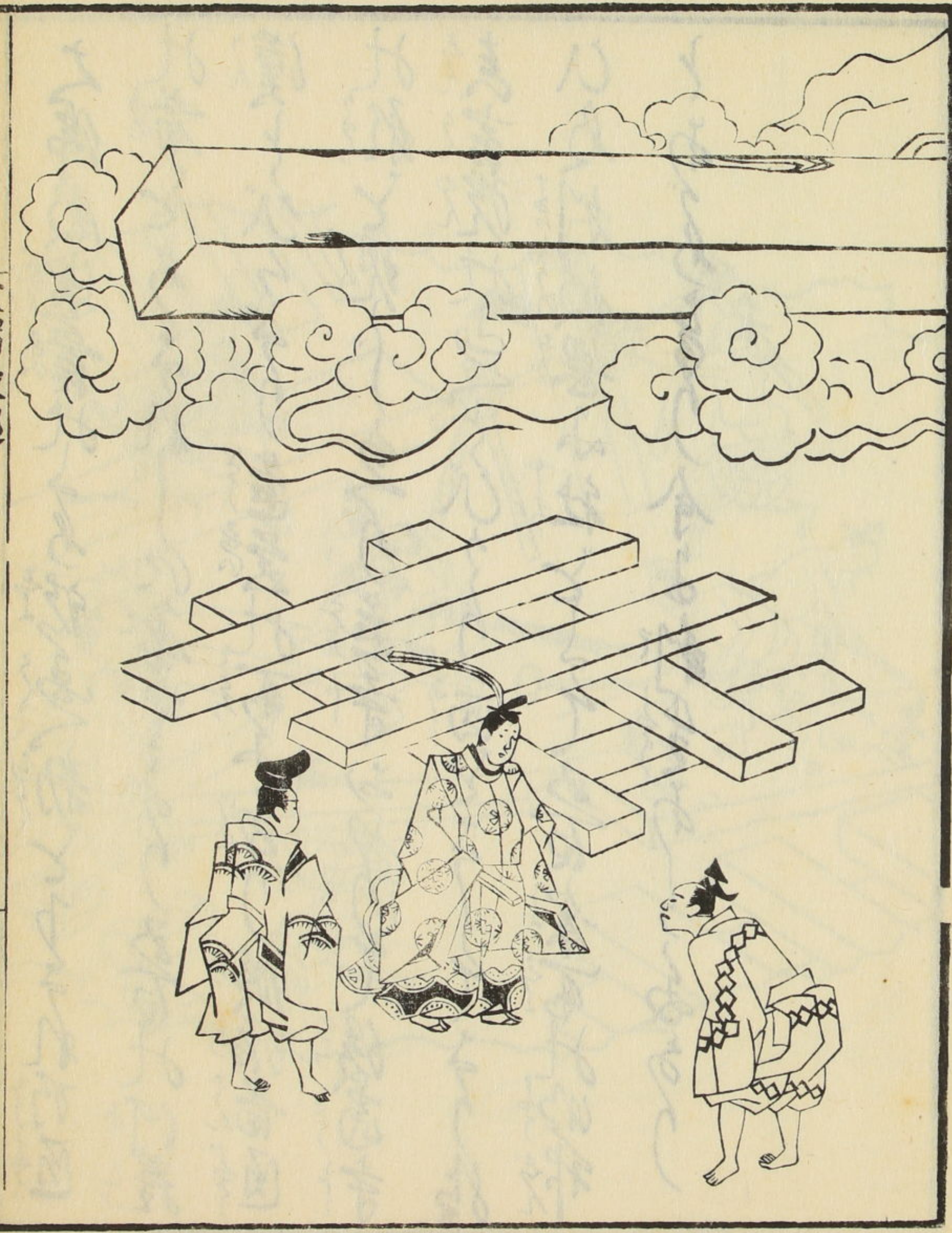


大佛怒走

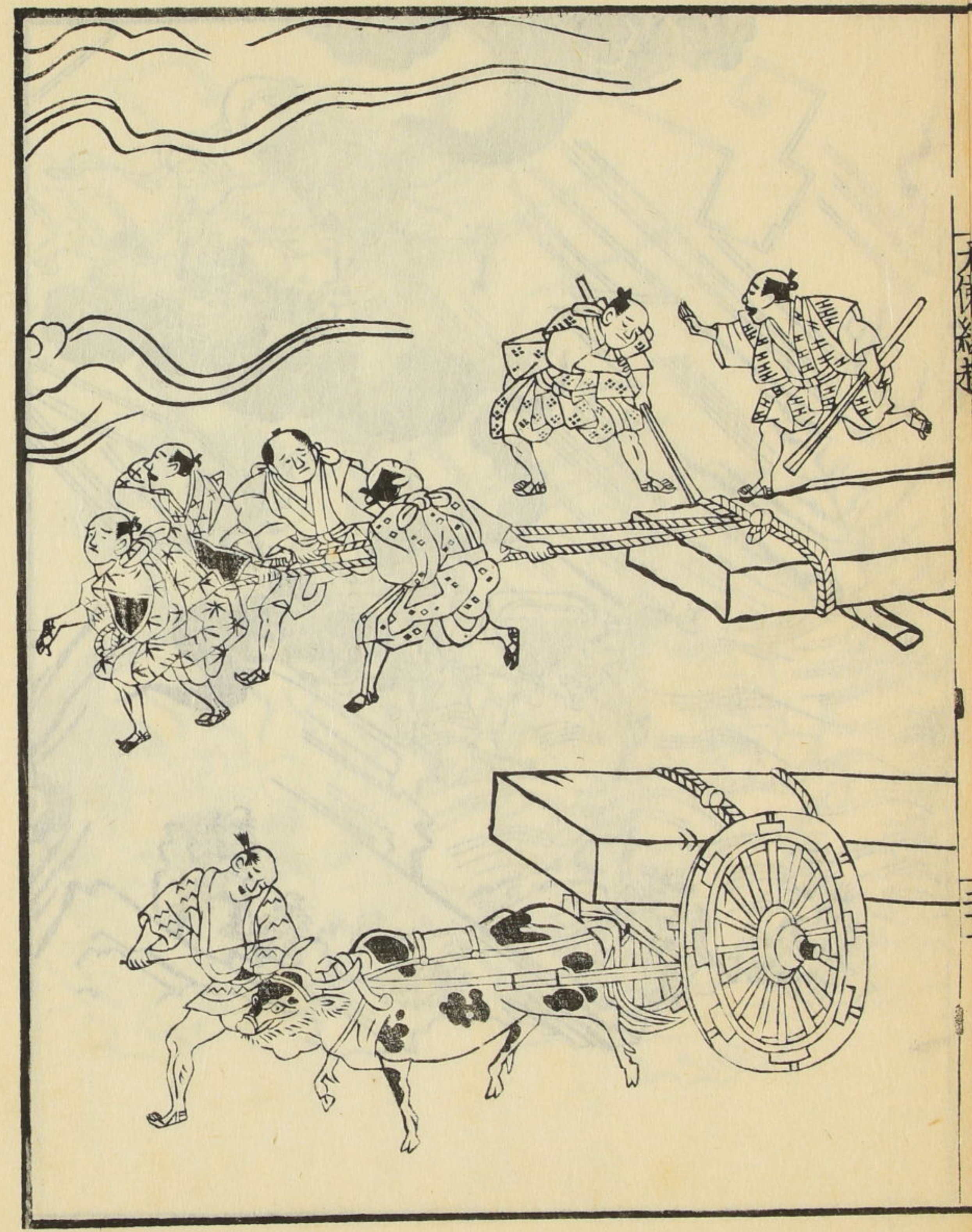


大佛怒走

六指衣已



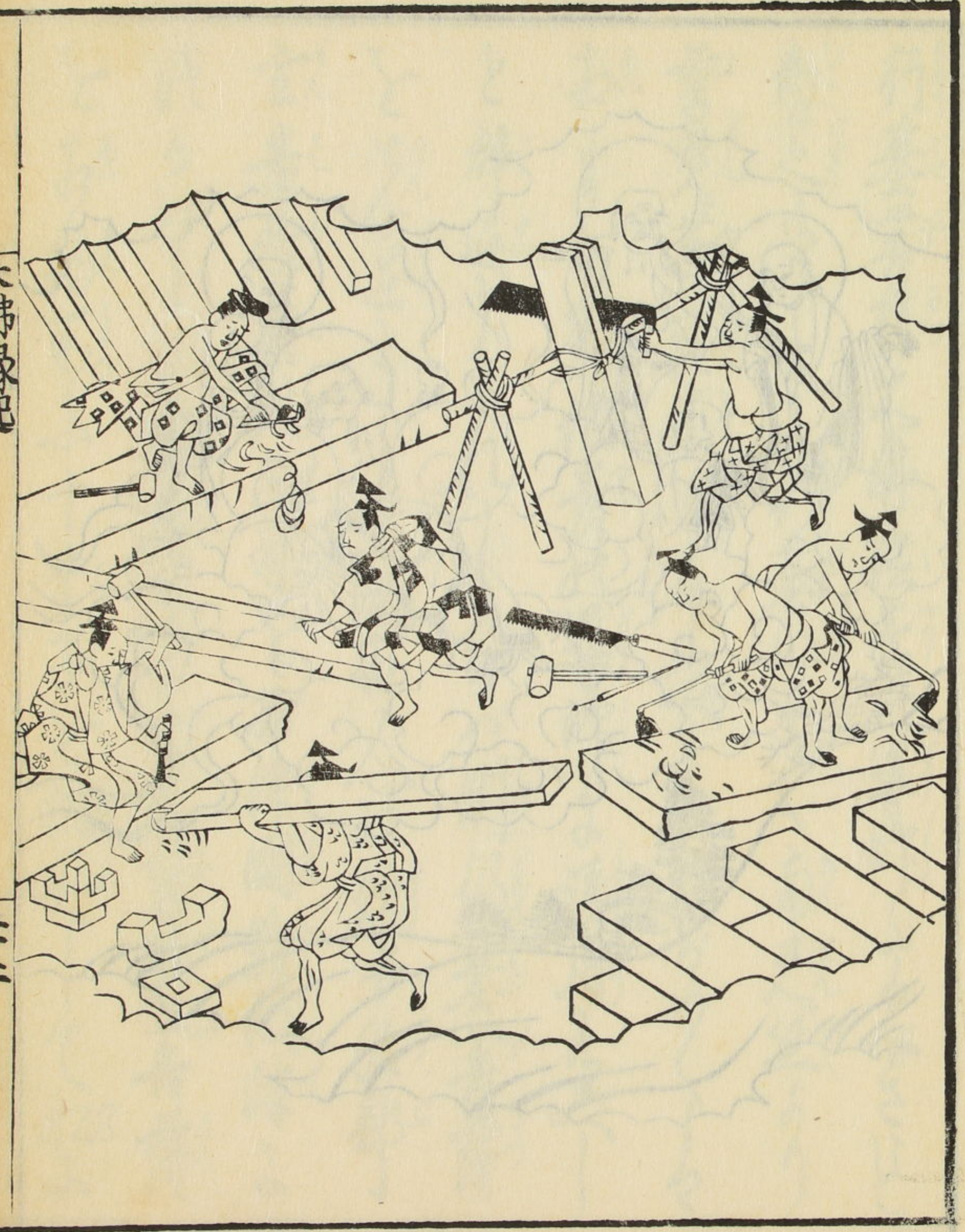
六指衣已



六指衣已

六指衣已

大佛殿造替此より後西へ勅とりされ巧匠
 此者とりされしに唐堂のり五百此阿羅
 漢とびさうり造替此より後西へ勅とりされ
 此殿と現ぐあり造替ありて後西寺
 真言院此とびさうり西とさうりてさうり
 ひり別殿（ひり別殿のあり）小社とて五百余此此
 とあがりあり今より別殿ありありあり





行基菩薩之佛供養此導師いんぎんくわんざうのぶつぐやう
 勅定しゆくぢやうありしいんぎんよいんぎんの基いんぎんいいんぎんくいんぎんくいんぎん南なん天てん竺ぢくより
 善賢ぜんげん菩薩ぼさつ來りありていんぎん祿りくがりていんぎん
 おまらしていんぎん供養ぐやう此いんぎん導師だうしの徳用とくようありて
 と祥しやう返へん申まをされしいんぎんわ別べつの基いんぎん菩薩ぼさつ
 と先せん達だつとていんぎん一いんぎん百いんぎん人いんぎん此いんぎん傍はう舟しゆ治ち部ぶ
 玄げん書しよ雅や樂らく此いんぎん三さん月げつといんぎん按あ津つ國くに雜あふ波な津つの
 流りゅうりしいんぎん番ばん花けといんぎんといんぎんあいんぎんるいんぎん善ぜん賢げん菩薩ぼさつ
 とお徳とくありしいんぎん十じゆ弟子でしといんぎん相あひ具ぐしいんぎんていんぎん和わふ

素ソウしシてテありリ終ハシりリ婆バ羅ラ門モン僧ソウとト此コノ
中ナカとトしシけケてテ新シン基キ善ゼン善ゼン薩ザク也ヤとトりリ
てテ昇シヨウとト殊シュとトありリ

加カ毘ピ羅ラ衛ヱよヨとトにニ契チヤクしシてテひヒありリ

文ブン殊シュれレとトりリやヤあアひヒんンつツるル事コト也ヤ

新シン基キ善ゼン善ゼン薩ザク也ヤとトありリ

寫シヤク山サン此コノ新シン曲キョク乃ノ以ヨしシてテ下カりリ契チヤクしシてテ

去ク如ニらラ口クハ舌ゼツをヲ見ミつツるル事コト也ヤ

今イマ以ヨ縁エン身シンよヨ新シン曲キョク此コノ以ヨしシてテ小コ契チヤクしシてテ

とトゆユつツるル善ゼン賢ケン文ブン殊シュれレ二ニ善ゼン薩ザク理リ智チ一ニ雙ソウ此コノ脇ワキ
おオとトしシてテ比ヒ之ノ体タイ盡ジンとトしシてテ中ナカ昨ソク如ニ来キれレ終ハシつツ
とト善ゼン三ニ一ニ末マツ世セ此コノ衆シュウ生シヨウとト後ノチ一ニ終ハシるル事コト也ヤ
新シン基キ善ゼン善ゼン薩ザク也ヤ此コノ時トキ初ハジメふフとトしシてテひヒありリ
りリとトりリ通ツウ終ハシつツるル事コト也ヤ被ヒ善ゼン提テイ傍ボウ正シヨウ
婆羅門僧

鍮ツウ石シヨク香カウ呂ロ

五ゴ具ク

菩ハ提テイ子シ念ネン珠シュ

十ジュウ連レン

多タ羅ラ葉エフ梵バン字ジ

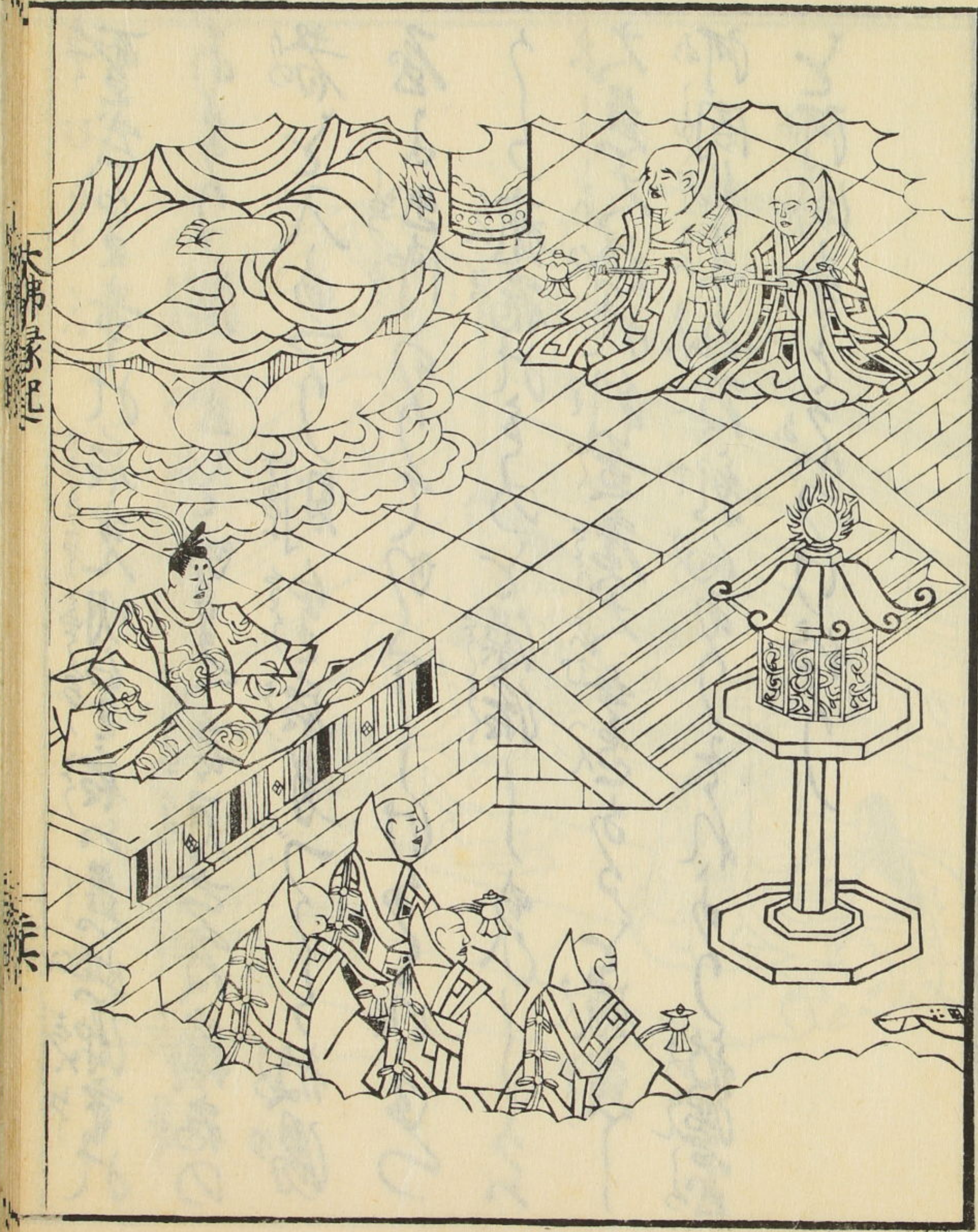
百ヒャク枚バイ

佛ブツ舍シャ利リ

三十サンジュウ粒リツ

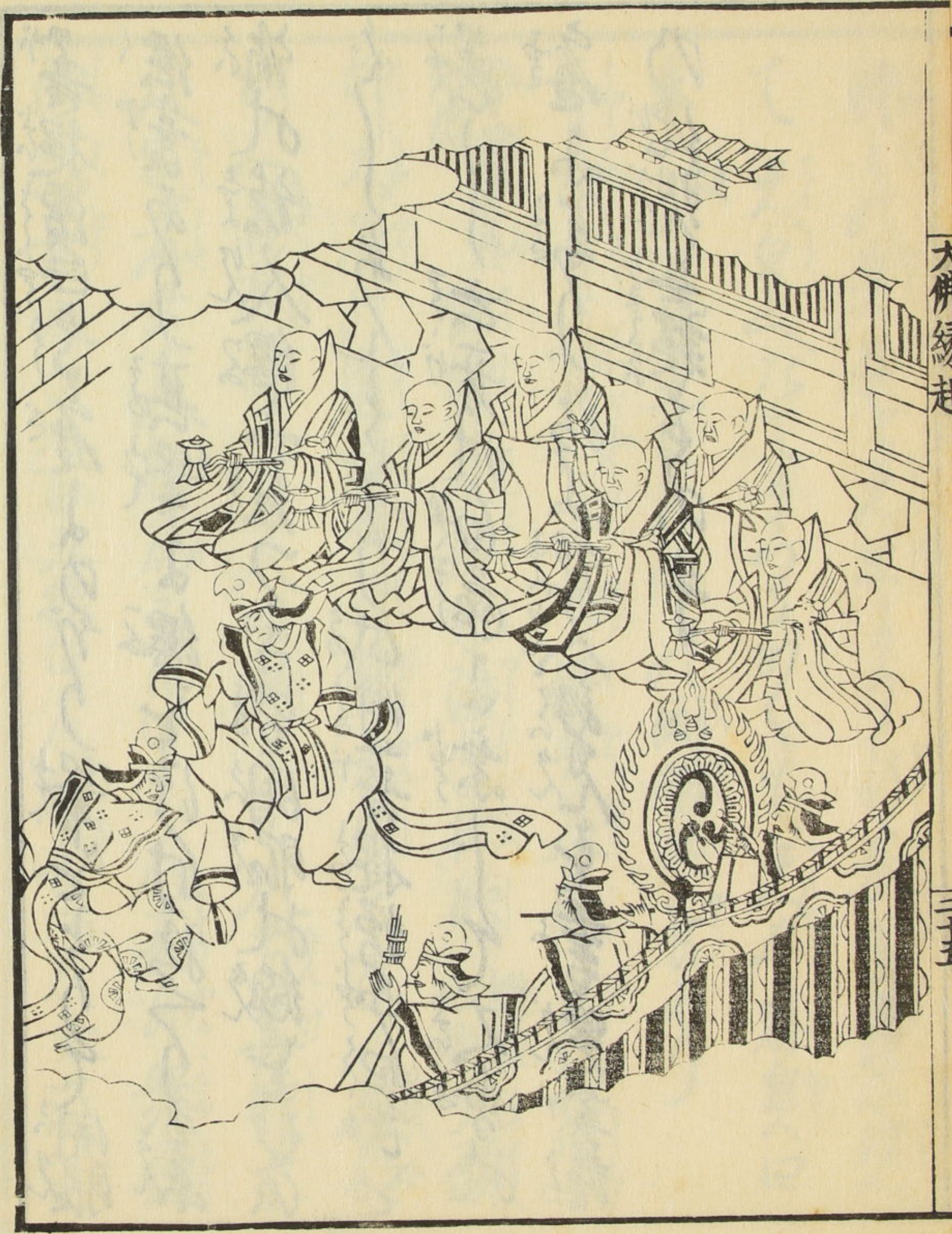
續く此寶物と天竺より抄基菩薩小徳
 て天竺へなしてまつて天竺勝實は
 年 屈日月九日大佛に用暇供養あり
 聖長皇帝御幸あり供養奉作善提僧正
 善提僧正 海師 元真寺隆号律師 化現 兎額
 仰大摩訶道場律師梵音師二百人維那
 六人羯鼓院二百人唄師十人歌善師十
 人定者女人初院三百四十人其外衆僧
 沙弥等八千八百九拾五人於合一万廿六人也

善提僧正より座よのがり筆ととりて用暇
 供養あり其筆よ總とほけ給り系
 消れ徳人總ふ九つと皆用暇此總とひた
 へんとありて時善提僧正白象と
 悉く六牙白象よ系とて大會れ
 座ふあり給ふ徳人好見と善提僧正
 の化現三衆との手



大佛起

三



大佛起

三

聖武皇帝此後光明皇后に慈悲深きれ
 あまり涅槃宮と号す。毎月之夜病の
 者を入あり。則ち皇后身づつ病湯
 屋よ出所ありて。あつひあつひ
 うら病れまゝと潔治しあひら
 大慈大悲の利益廣大無量あり感
 阿闍梨末毎夜新向あり。それより被
 と阿闍寺と名づけゆり



大佛経巻



大佛縁起

三

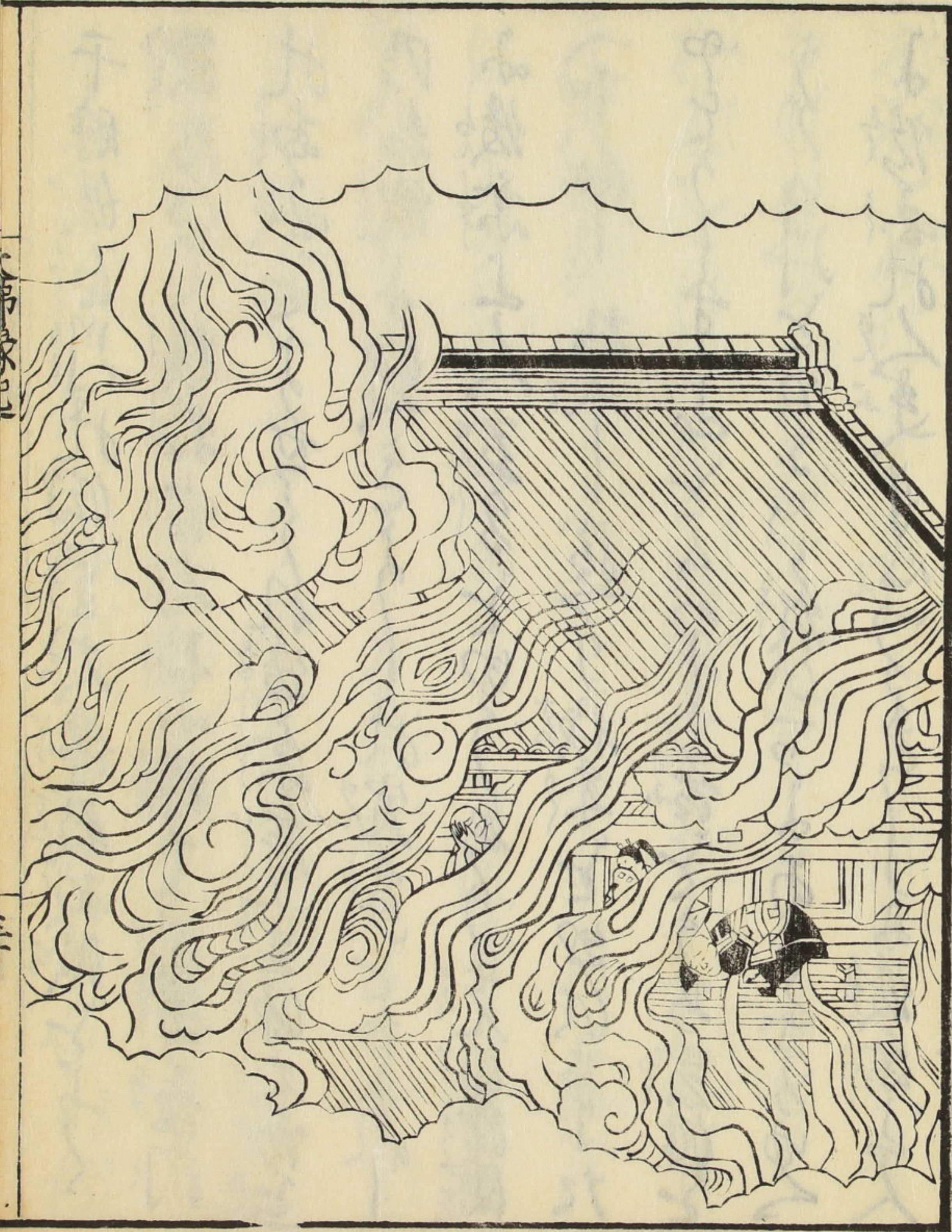
治承四年十二月廿六日平重衡數百騎北軍
 兵と率し南谷と發向しし日回廿八日
 東大寺興福寺北西寺焼りしが廿九日
 殿舎此れに頭ハあてて灰燼となりし身も
 ことこのあひて大仏にとも見聞北人隊と
 ありし梵天帝釈も眼くれ天邪地祇を
 胸とらぐし終つんと是れゆり千時産光
 小鬼形れらの現しして大佛殿焼ゆらげ
 しもつたりし見せんまじりてありし

大佛縁起

三

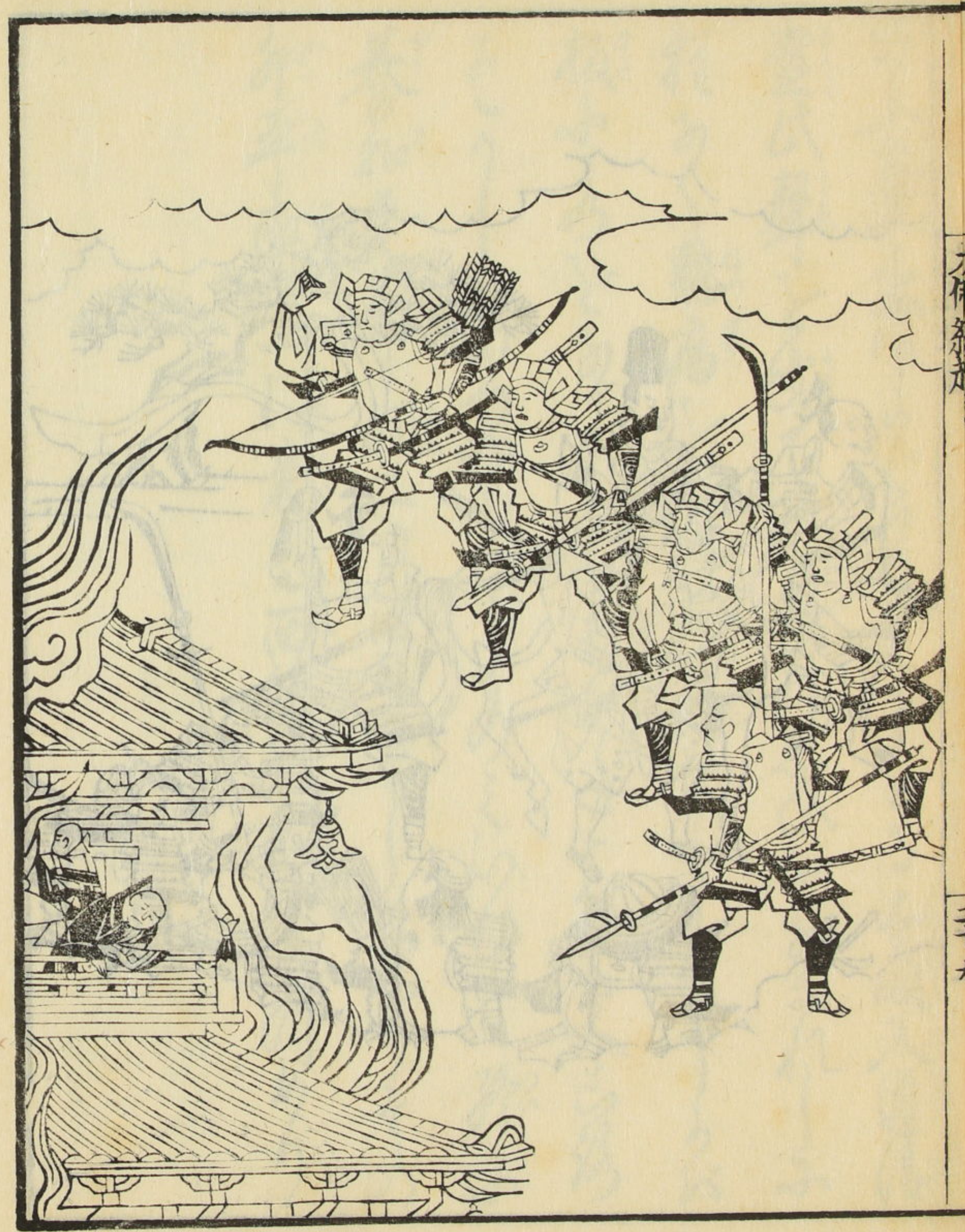
けりまゝに言ふまゝなりてとくも
 盛平聲とて使て怖畏れ思ひとあされし
 程あり熱病とてけ悩れし
 板おあとおぐてああこあこは
 たりしあつやくしものこひく
 養和元年二月四日薨じ
 介平處北一門巻く西海に
 波おまきなり





天竺寺

二



天竺寺

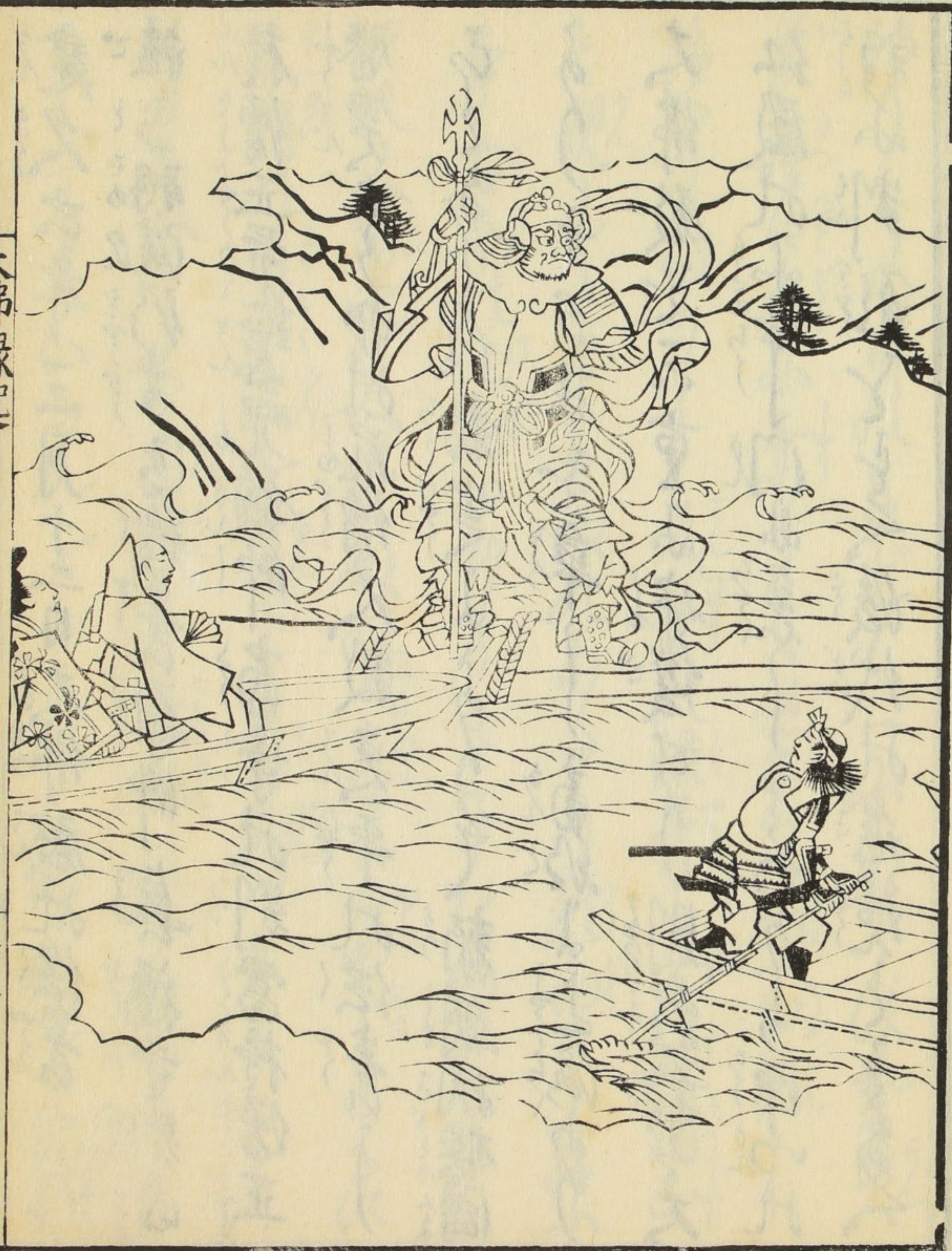
三

干時後白川此法皇大佛殿破滅と云く
 歌詠ひて頼朝者大御作て因防長門
 此あふとよせこれ後宗房重源之勅を
 の志誠と云ふと云ふ一此宣旨と云ふ外
 小後宗上人宣旨と云ふ御り先因防國
 へ下向一極入一終り枝本と云ふ事た
 やと一す山と云ふ一吾と云ふ女志と
 うづら川と云ふへ終ひ一りよあはらざらゆ
 よ徳よ此人身心つと云ふ一小後宗上人

大石と稱れどくふらざらり同村よ數方
 あげあつた老乞と云ふ合してたやとく
 枝本と云ふ又彼よ本末と云ふ
 干時出現して大石と云ふ一川と海は
 け一く枝本と云ふ一此の事はゆと
 切りたりじり一と雷神と云ふりて
 垂れ岩と云ふと云ふ今と大魁と云ふ
 と云ふ一彼その不思儀者も今も因
 豈天邪地祇此冥感よあはらざら

後宗上人因防國水永く救生とらんん
 一こそきくこと真よあ 報治昔通り
 合せられたり上人或も此友よ結しよ
 真おほくびくぐり事いらく大佛
 願き此報治事此合とめても結ふ
 あり中流のき海とのづかぬいよ水く
 痛所とやめ終ふ事出離此結と一あひ
 ゆるやとくくかんじ上人急ご痛所よ
 網とお海と層と一又お知一あくと

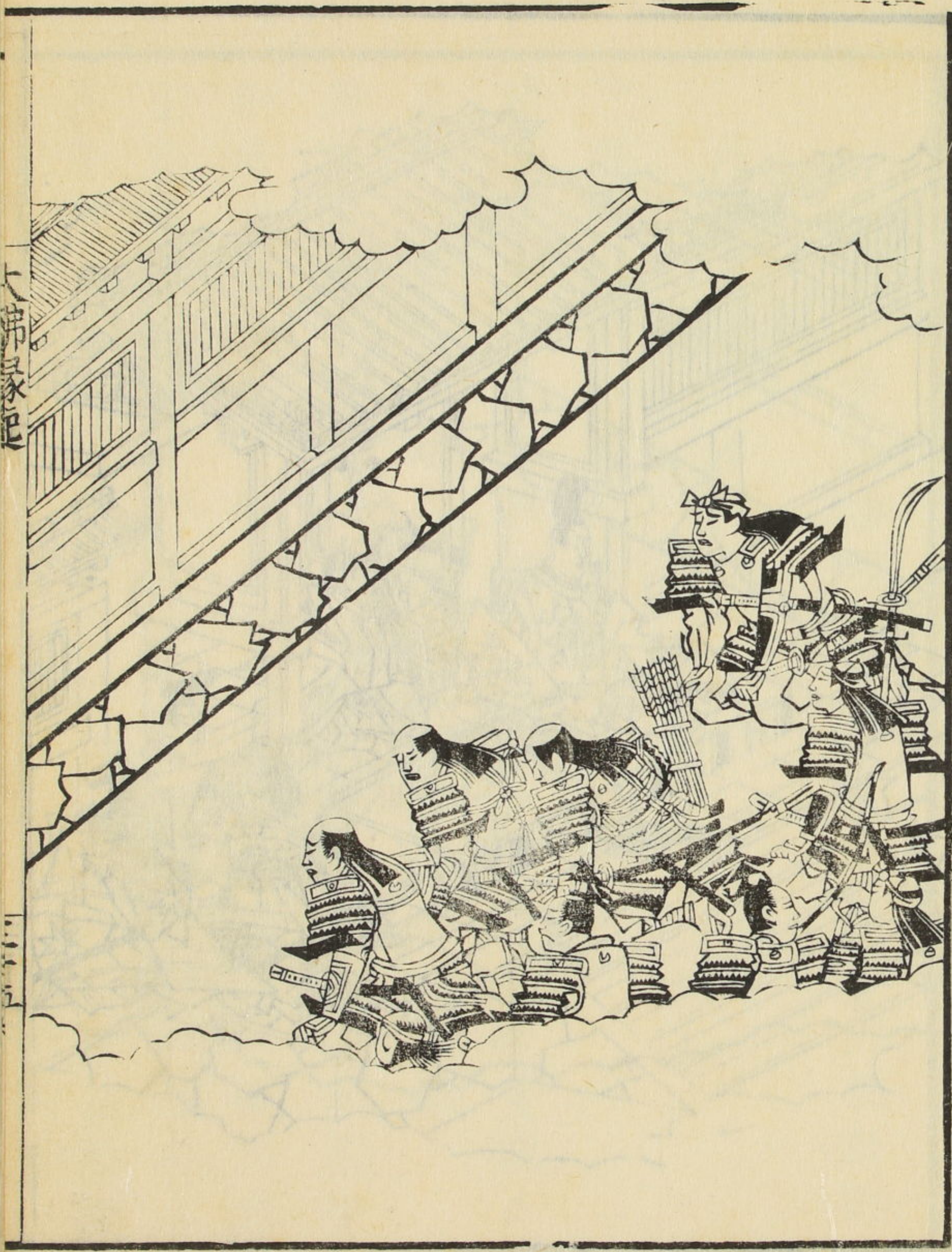
おほく此結とくれたりそ前とさだあこれ
 店といひつてくゆり又因防國より大仏
 殿曰天此に衣本と海とようく漕よき
 時海賊あまここのあひ此に衣本とくをひとく
 ひととくふ彼に衣本頼よみまらり此増
 長天此形も現とあつ海賊とよおとらと
 四方へあげたりと不思儀微妙此事と
 あん



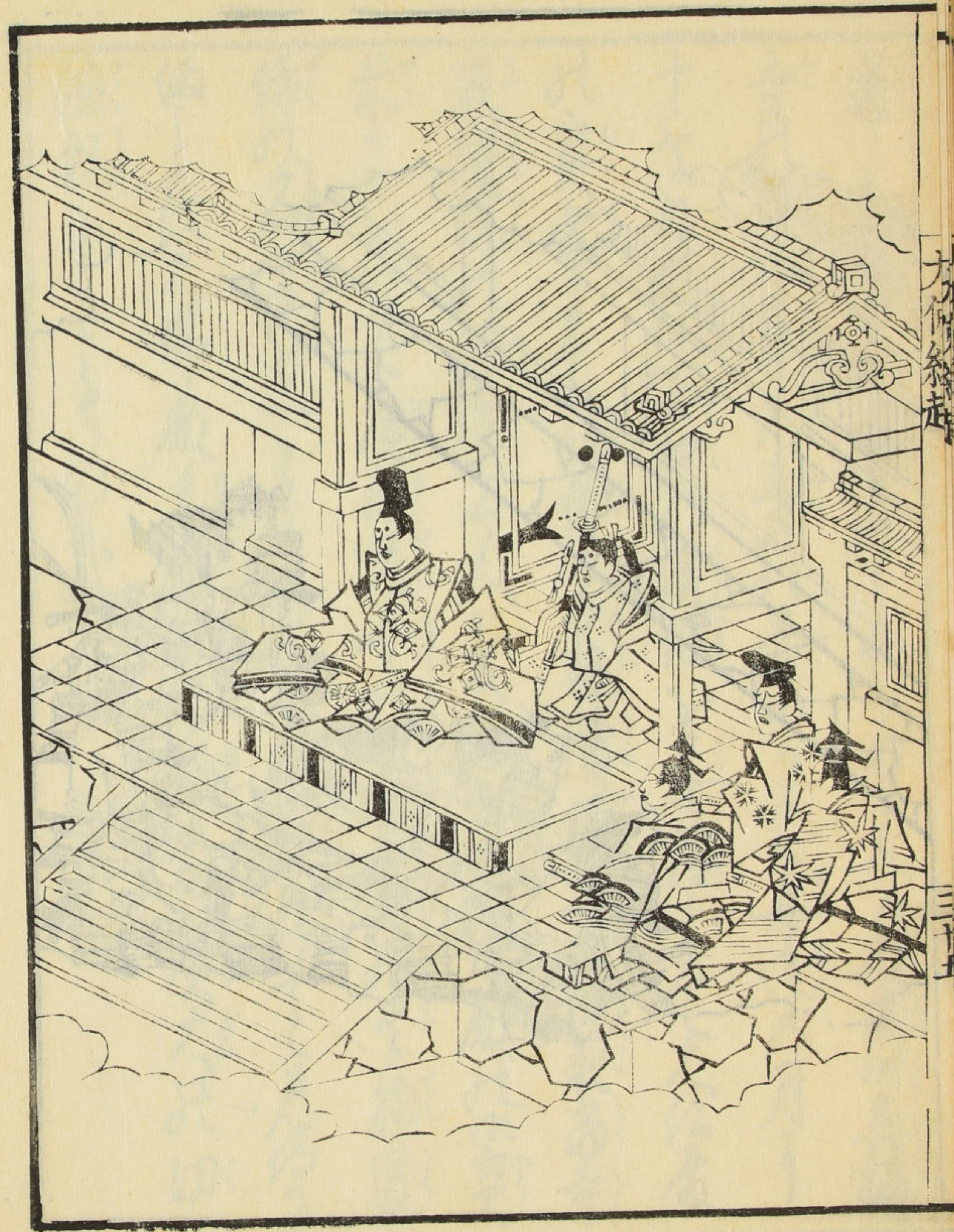
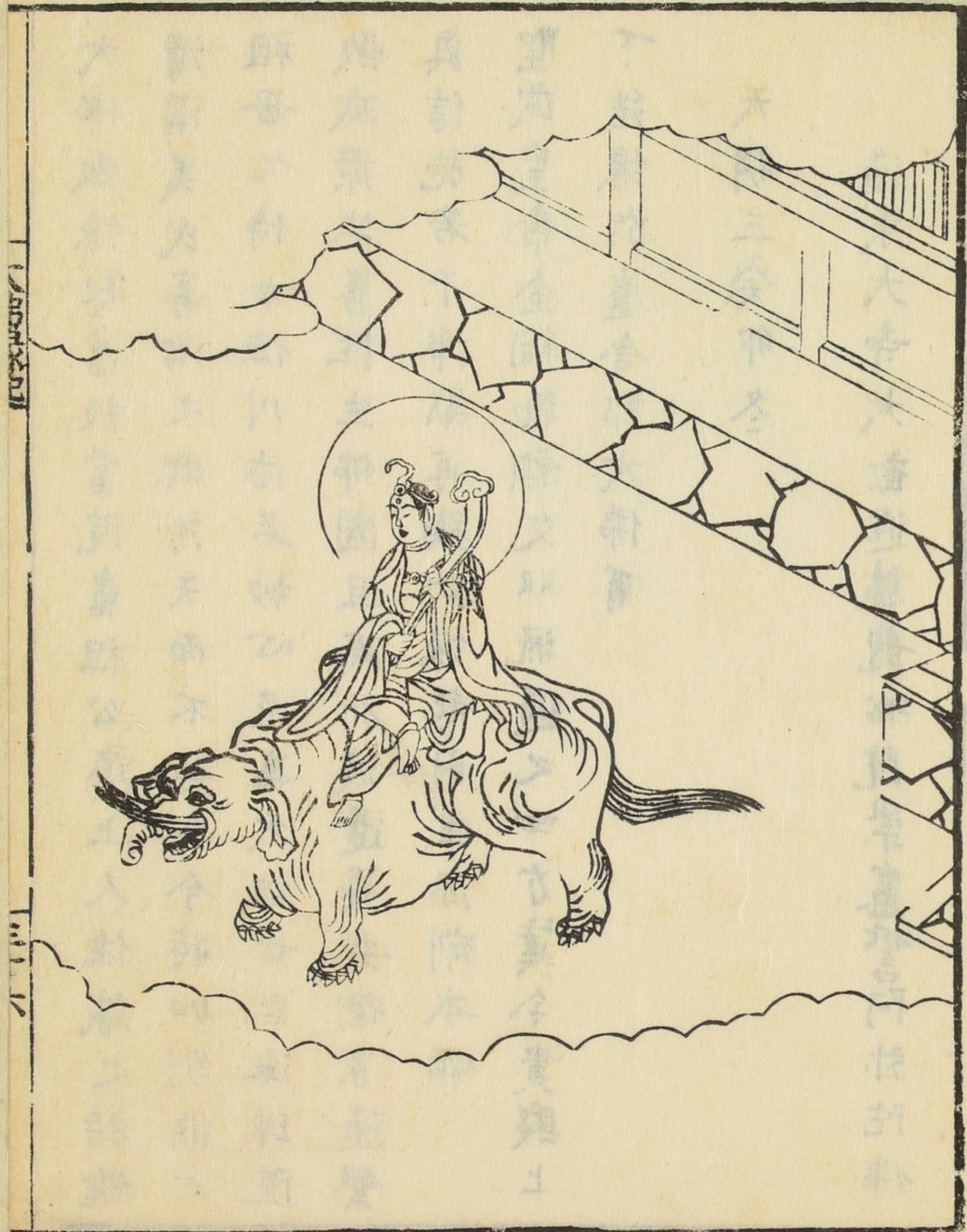
建久六年三月十二日大佛殿此供養
後鳥羽院の事を修書する寺師真福寺別司
持僧正尊憲院領師尚寺此別當持僧正
勝賢その外此院僧人数天平此供養
よとあはれ勅定よありて頼朝相模國
あり十方騎と率一南於よよあり
大佛殿と三重小守後寺り則於於大
仏殿此中門母急ししつら申此
相小判形ととく後代此龜鏡ととあり

ゆりその目れとどく一ふあはれ
美産白鳥ふまどて供養此初へ出現し
臨りりびり天平此供養よ美提僧正
と現し今と彼れあたり新向し臨ふ
事古今此化後あはれとつらこの
切風又雷形大佛殿此大座よ落下ま
系消れ道俗文と交し貴賤たま
しあひし雷形も結縁れありあり
うばふもあんとあはれ大佛殿と

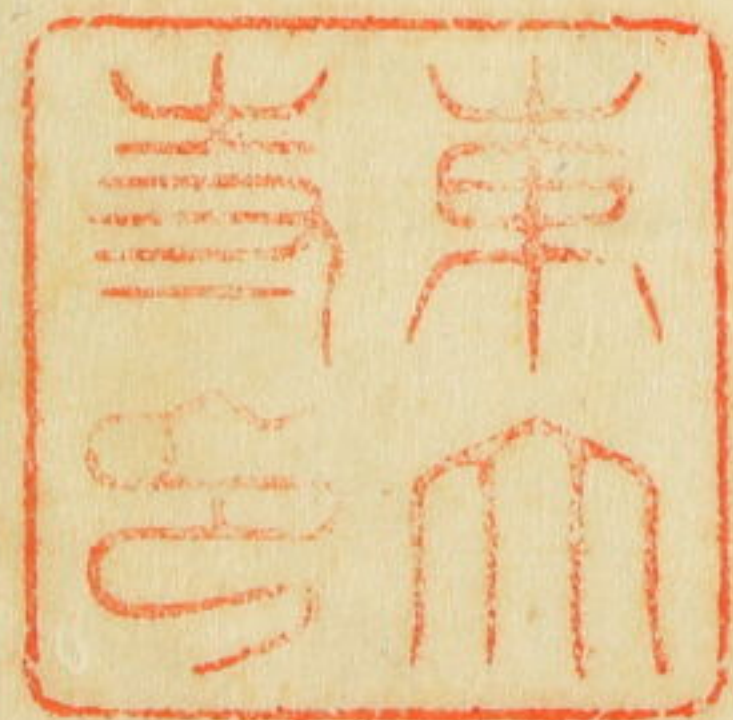
道一庵新とさうしてあがりつた或時眞福
 寺に信侶良き多し告ありて毎夜六月
 十ヶ日此同百口の僧侶と居傳して大仏殿
 此夜新として法華子部讀誦早同來高寺
 戒壇洗れ西迎上人爰想云大佛殿此夜
 前よとりて廣國天令れよ多結此を結道
 俗れ名字とてくよまゝに付結ふと月夜
 海に之佛殿多結此結結と廣大此四
 徳新あるもの也



一休集



美術書肆
柏林社書店
東京都文京区森川町2
電話 (921) 5445



大佛殿緣起舊板當院鼻祖公慶上人住職之時雖
清須義氏寄附之既紛失而不存矣今時如例候大
祖母之侍女佐川汰名妙心尼為大祖母悉淨珠院
啟滅眾生善性生佛國且為祈渡邊長兵衛家運繁
興信施若干淨馱再鑿斯緣起因幸添刻本願
聖武皇帝金銅勅願文双流通之四方冀令貴賤上
下結緣於盧舍那大佛爾

天明三癸卯冬

造東大寺大勸進藤龍松院崇憲誓阿弥陀佛

